

会報

第20号 (2012/10/14)

広島県福山市木之町4-3-14  
Tel&fax: 084-917-5937  
e-mail: info@comirune.com



Community Researance Research Centre

都市農業を考える連続講座『第2回目  
消費者の動向と都市農業』開く



10月6日午後2時から、『都市農業を考える連続講座』の2回目を開きました。今年8月に農水省は「都市農業の振興に関する検討会」による『中間とりまとめ※1』を発表しました。そういう点ではこのNPOで今年度取り上げた『都市農業』問題は、まさに時代の課題でもあったということになります。

「消費者の動向と都市農業」と題して、JAふくやまの理事で本会会員でもある佐々木重綱さんのお話。その概略は次のとおりでした。

福山市農業の問題点



①市として農業を考えているのは教育委員会のみ。学校給食に供給する野菜の期間を幅広くするため、ハウスに補助金を出してくれている。

②市街地農地は地価税標準額が見直され、毎年2割ずつ税額が上昇している。

産直野菜市の開催を通して見えてきた課題

産直市を始めて4年目。最初は川口農協で週2回とニューキャッスルホテルでも1回行っていたが、これは1年で止めた。今は週5日、時間も長くなった。場所も川口農協の建て替えにともないグリーンセンターを使えるようになり、テントを立てなくても良くて楽になった。産直市実施の中で見えてきた消費者側の課題。実施当初は安心安全の点からも消費者に喜ばれていたが、スーパーも対抗して産直市の値段をみてそれより安くし始めたので、消費者はそちらに流れるようになった。しかし良いものを作ると売れる。

農家の側の課題



①就農者の高齢化が進んでいること、②耕作放棄地の増加と地域間の農産物の流動化、③農業用水利施設の問題、④栽培計画、⑤売れ残り野菜の問題などがある。

①高齢化により、予防や耕耘機の使用がやりにくくなってくる。高齢者でも何かの援助があれば出来るので、作業の協同化が必要。

②耕作放棄地を集約化することが必要。静岡県では110haの農地集約をしているところもある。農産物の地域間流動を阻む要因がある。例えば神石ではトマト団地で生産しているが、消化できずに困っている。これを川口で販売しようとする、JAは地産地消とならないという。

川口の人が神石で作るのなら地産地消になるという。又、福山には5カ所の産直市があるが、それぞれが電算化しているのでJA全体が同じシステムになるとお互いに出しやすくなる。

③福山市は大幅な区画整理をして用水排水施設を整備してきたが、借家が増えて農業をする人が減少してきた。水利組合の人を決めるのも大変で、水の管理が出来なくなっている。一文字堤防の排水管理も地元がやってきた。しかし、宅地化によりすぐに水がたまるようになったこと、大きなポンプ三基の取り扱いには専門的知識が必要、など。

④栽培計画販売計画を誰が立てるか、と言うことがある。最近では物流業者の方が計画的にやっている。例えばローソン。自分のところで野菜を生産し、自分のところで配送し、販売している。又、市場も産直に似たようなことをやり出している。

⑤売れ残りの野菜は原則持ち帰ってもらうことにしている。カット野菜にするから、と販売価格の半値なら引き受ける、と言うところもあり、付加価値をつける加工のウエイトを増やす必要がある。作って売る、というのは野菜の栽培だけでなく、加工までを視野に入れる必要がある。

今のままではもう5、6年は出来るかも知れないが、集約化した農業を、本気で生産体制を考えないとみんなが無責任に成り、続けられないと思う。

今回もたくさん差し入れをいただきました。手作りのパン、漬け物、みかん、柿、手作りの栗の渋皮煮、田尻南京を使ったお菓子などなど。それらを口にしながらから佐々木さんの話をめぐって交流をしました。

今朝も産直市をやってきた、と言う人からは農協に対する要望が出ていました。今は自分の近くの農協は種や肥料を扱わないので川口農協まで行かないと買えなくて不便。また、昔農協に勤めていて昔は農産物を中心に金が動いていたが、今は銀行と同じようになっていて。JAは農業者のための共同体であったはずだが、などという意見も。

パンを焼いてきてくださった方は、余った野菜をヌカ、味噌、月桂樹等を混ぜたものに漬けて込んだものを持ってきてくださいました。これは産直市で売れ残った野菜の活用方法の一つになるのではないかと。

お菓子を持ってきてくださった門田さんからは、「自分で作ったものを売ってきた」との話も。それを受けて安川代表理事からは、大原孫三郎の小作農民を前にしての、「しっかりと頭を使って工夫して農業をやれ。そうすれば良いことがある」と言う演説を引き合いに出しながら、今農協に求められているのは「経営合理化を図りながらまじめに農業のことを考えていくこと」と。

今回の参加者は、市立大学野菜クラブの学生さんを含めて12名でした。

※1

参考 農業協同組合新聞10月4日号より

農水省：「都市農業の振興に関する検討会・中間まとめ」

政府は8月9日、「都市農業の振興に関する検討会」を開き、中間とりまとめを佐々木隆博農水副大臣へ提出した。佐々木副大臣は、都市農業への対応は重要な課題だとして、「この報告をもとに、具体的施策を考えていきたい」と述べた。

検討会では、平成22年3月に閣議決定された食料・農業・農村基本計画での「都市農業を守り、持続可能な振興を図る」という基本的な考えの下、関連制度の見直しや具体的な取り組みをどうするかについて議論してきた。

中間とりまとめでは都市農業をめぐる情勢について、固定資産税の宅地並み課税や相続税猶予制度における終身営農の要件付けなどが「農業者の土地利用の自由を制約し、(中略)農業者が農地保全を選択するものを躊躇させるものであった」、「都市の空き屋率が上昇しているにもかかわらず、市街化区域では年間3000〜4000㎡の農地が宅地へ転用されている」、等の問題点を指摘。

その上で、都市農業保全に向けた国民的理解の醸成や、都市農業振興に関する基本的な法律や条例等の制定を目指すべき、とした。そのためにも、農水省が国交省の都市計画作りに積極的に入っていくなど省間連携の強化を求めた。

特に税制や土地利用の諸制度の改正については「多数の国民に大きな影響を与える」ため、「幅広い関係

者の共通認識」を作ることが必要だとしている。

各委員からは、「農地だけでなく農業用施設用地や屋敷林など営農に必要な土地などの相続税軽減措置」、「行政・農協などを介した農地の賃貸借の仕組み」、「宅地から農地への転換手法の導入」、等が必要だといった意見があり、これらについても今後議論を深めるべきだとしている。

気軽に集って楽しみましょー

童謡を楽しむ会



初めての企画「童謡を楽しむ会」を9月19日におこないました。グループホームの方や子どもさん連れの方など12人の参加でした。高齢者の方はお化粧をしてくて下さり、子どもさんを見てニコツとされていました。

今川さんのリードと伴奏で夕日、トンボのメガネなどの童謡やアンパンマンの歌などを1時間たらず歌いました。途中で、アンパンマンの「やなせたかし」

さんのことや歌った童謡の背景などを江藤さんから説明してもらいました。

その後リンゴや梨などを食べながら、自己紹介をしたりして交流しました。



これからも月1回、時間は午前中に、内容も工夫して続けようと言うことになりました。

不要品を工夫して生活を豊かに



10月3日、参加者は4人と少なかつたのですが、コースターにもなる秋らしい木の葉を作りました。一人ではなかなか針を持つて何か作るう、と言うことにはな



りませんが、おしゃべりしながらだと楽しいね、と言いながら作りました。はじめから作る人、途中で藤原さんが作って下さっていたものを使って作る人、とありましたができあがると嬉しいものです。

編集後記



まず初めに、先月は第9号だったのに、今月が第20号となっていることをお詫びさせていただきます。第20号が正しいので、今月から修正させていただきます。

今月もあまり時間がない中での作業だった為、先月号とあまり変化をもたせることができなかつた。これから少しずつでもより面白いものにしていけるように頑張りたい。(羽)

これからの行事予定

・童謡を楽しむ会

とき：10月24日(水)・午前10時から11時30分  
ところ：NPO集会所

講師：元幼稚園教諭  
今川美代子さん

アドバイザー：藤原スエ子さん、  
江藤朝子さん

内容：童謡を楽しむと共に、楽しく遊べる物作りもしてみたいと思います。

グループホームの方々からも昔の遊びを教えてくださいだいたりしたら、とも考えています。

・『都市農業を考える連続講座』第3回目

「不耕作地を活かす取り組み」

とき：11月10日(土)：13時～16時

ところ：NPO集会所

講師：菜の花グループ

瀬戸口栄子さん、小野眞喜枝さん

内容：3年間、不耕作地で野菜を作り、それを様々に活用してこられたグループです。今年度からは新しい取り組みも始められました。

・「食生活から生活習慣病を考える」

とき：10月17日(土)：13時～16時

ところ：NPO集会所

講師：管理栄養士

寶諸純子さん

内容：簡単な料理を食べながら、日常の食生活に必要なちょっとした注意をお話しいただきます。こうしたことの積み重ねが生活習慣病の予防につながります。

お知らせ

4月からNPOで図書の整理をしていただいていた伊佐初枝さんが、9月末で名古屋に帰られました。短い間でしたが、中国語の講師、図書の整理とお世話になりました。ありがとうございます。今も名古屋で本の整理や図書室運営方法などを考えていただいています。これからよろしくお願ひします。

